

平成 2 1 年 1 月の解説（府県天気予報）

【 1 月の天候状況 】

上旬はほぼ冬型の気圧配置が続き、北日本から西日本の日本海側では曇りや雪の日が、太平洋側では晴れの日が多くなりました。5 日から 6 日にかけて低気圧が発達しながら本州付近を通過し、北日本では大荒れの天気となりました。中旬の初めは全国的に天気がぐずつき、その後は冬型の気圧配置が強まり、北陸地方を中心に大雪となりました。旬末は移動性高気圧に覆われ全国的に晴れました。下旬は 2～3 日おきに低気圧が日本付近を通過して冬型の気圧配置となりました。そのため北・東日本の日本海側では曇りや雪または雨の日が多くなり、その他の地方は天気が周期的に変わりました。

月を通しての日照時間は北日本で平年よりかなり少なくなりましたが、その他の地方では多くなり、南西諸島ではかなり多くなりました。降水量は北・東日本の日本海側で平年より多くなり、東日本の太平洋側と西日本、南西諸島は少なくなりました。月平均気温は北・東日本で平年より高くなりました。

【 1 月の検証結果 】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が 83%、明後日予報が 81%で、明日予報は例年（注）より 1 ポイント、明後日予報は 2 ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は沖縄地方で例年より 9 ポイント高くなりました。明後日予報は例年に比べて九州南部、沖縄地方でそれぞれ 8 ポイントと 10 ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は北・東日本と中国、四国、沖縄地方で例年より 0.2 から 0.4 小さく、全国平均は 0.2 小さい 1.3 でした。また、最低気温の予報誤差は北日本と東海地方で例年より 0.2 から 0.3 小さくなりましたが、九州南部地方では 0.4 高くなりました。全国平均は 0.1 小さい 1.5 でした。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【 3 月の天気予報の利用にあたって 】

3 月になると日本付近で冬型の気圧配置が何日も続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通過して、晴れの期間と雨や曇りの期間が交互に現れる天気が多くなります。ばかばか陽気の暖かい日になったかと思うと次の日には一転して急速に気温が下がり大雪が降るなど、天気や気温が大きく変わることがありますので、最新の防災気象情報や天気予報を活用して雪や低温による災害の防止や健康管理等に役立てて下さい。